広報おうしゅう
Vol.98
2014 4
□発行日／4月10日　□発行／奥州市　〒023－8501 奥州市水沢区大手町1－1　□電話／0197－24－2111　□編集／総務企画部政策企画課　□印刷／鈴木印刷㈱

画像提供：浅川隆光さん（水沢区）

1春の朝日に照らされ幻想的な色合いを魅せる出居の妻櫻（平成20年撮影）　2雪解けが進むころ、伊手川のほとりにある出居の妻櫻のつぼみが膨らみ始める。周囲にはいまだ残雪も（25年3月25日撮影）

Oshu Heritage

奥州遺産

～ときを越え受け継がれるもの～

No.43

出居の妻櫻

＝江刺区伊手字地ノ神＝

南に阿原山の頂を望む伊手地区。その中央部、伊手熊野神社から約200㍍南の伊手川のほとりに、出居の妻櫻は立っている。

樹齢450年以上と推定され、幹回りが6㍍を超える出居の妻櫻。県内でも、3本の指に入るエドヒガンの古木と推定され、今では地域の象徴として住民から親しまれている。

出居の妻櫻は、広大な屋敷跡にあったといわれている。出居とは、接客などに使われる奥座敷を意味し、妻（褄）は端を表すことから、その位置関係からこの呼び名が付けられた。

「種蒔き桜」とも呼ばれる出居の妻櫻。その昔、桜の開花期は水稲の種をまく時期と重なることから、長きにわたり、自然暦としての役割も果たしてきた。

種山の豊富な雪解け水で勢いが増す伊手川。出居の妻桜は、その恩恵を受けながら、桜花爛漫の春を待ちわびる。

広告

VEGETABLE OIL INK
※この広報紙は再生紙と植物油を使用しています。
※この広報紙は奥州市のホームページでもご覧いただけます。【本紙1部の印刷費用は約29円です。】